

学校法人八潮会 八潮幼稚園

実践報告書



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

2025年度

テーマ

# 感触

園庭全面に広がる砂場を生かし、  
毎夏、泥んこ遊びを実施しています。  
その中で子どもたちは、  
土や砂、水の配分を試行錯誤しながら、  
その感触を楽しむ様子がありました。  
手のひらを通した子どもたちの体験や気づきを  
深め、広げていきたいと考え、  
「感触」をテーマを設定しました。

対象：年少3歳児👒、年中4歳児👒、年長5歳児👒



事例①細目砂で泥んこ遊び

事例②黒土で泥んこ遊び

事例③泥団子づくり

事例④うどん作り（年長のみ）

事例⑤粉あそび

事例⑥粘土遊び→製作



# 事例① 細目砂で泥んこ遊び



**? 泥って、なんだろう？**

**【ねらい】**

・ 砂や土に触れ、その感触を味わいながら、自分の遊びに活かして楽しむ

**【内容】**

- ・ 砂、土、水を用いて、集めたり混ぜたりしながら、その感触を味わう
- ・ 砂、土、水の特徴に気づき、何かに見立てたりしながら遊びを楽しむ

## 事例①細目砂で泥んこ遊び

# 子どもの姿



人魚姫に変身🐟  
足を砂で埋めても  
「あんまりお肌に  
砂がくっつかない！」  
不思議を発見★



年長児はバケツの型抜きを  
沢山作って楽しんでいました！  
普段よりも  
ケーキ作りが大盛り上がり🍰



ふわふわの細目砂。  
「水をかけると少し固まって  
歩きやすいよ」  
大発見を言葉にする姿が  
ありました！



「お水はどこに行ったの？」→  
←細目砂に吸収されていくお水を見て  
何度も何度も汲んでいました！



## 事例①細目砂で泥んこ遊び

### 保育者の気づき

- 普段、泥の感触を苦手とする子どもも細目砂に対しては抵抗感が少なかったようで遊びに入りやすいようだった。
- 水を加えるよりも砂そのものの「ふわふわ」な感触を楽しむ姿が多く見られた。
- 細目砂の吸水性が高いため、泥団子や川作りがイメージ通りにいかない様子があった。それに気づき、型抜き遊びをメインに楽しむグループもあった。
- 砂山を踏んで登る感覚を楽しんでいた。“水を加えれば足場が固くなる”など 気づきを得て工夫する姿も見られた。

## 事例①細目砂で泥んこ遊び

**“泥”の種類やイメージを更に広げていきたい！**

**子どものイメージを形にするには別種の土が必要！**

## 事例②黒土で泥んこ遊び

 砂と土の違いって、なんだろう？

【ねらい】

- ・ 砂と土に触れ、その感触を味わいながら、その性質の違いに興味を持つ

【内容】

- ・ 細目砂と黒土に触れ、泥を作ったり、何かに見立てたりして遊びを楽しむ

# 事例②黒土で泥んこ遊び 子どもの姿



「土が伸びた!」「粘土みたい!」  
「なんでも作れそう!」  
細目砂のときとはまた違った表現が  
聞こえてきました👉  
そして  
泥団子作りに挑戦する子が、多数!



砂の泥団子と土の塊を  
ぶつけ合って比べていました!  
砂は碎けて、土は残ったのを見て  
「こっち(土)の方が強かった!」  
遊びの中で実験しています🌟



前回の細目砂で作った  
山づくりの続き!  
黒土で補強をし、頑丈な山を  
作り上げていました!  
素材を  
使い分けているのかな...?



「せんせいみて!」と  
泥だらけになった身体を  
嬉しそうに見せる子どもたち。  
泥パックあそび🌟  
泥が乾いてくると...  
「ピキピキになった」!



## 事例②黒土で泥んこ遊び

# 保育者の気づき

- 細目砂のときにはなかった『泥を塗る』という遊び方が出てきた。  
→自然と黒土の特性に気づき遊びに活かしているのではないか。
- 前回の細目砂よりも、積極的に水を加えており、“泥”に魅力を感じている子どもが多かった。一方で、泥が苦手な子どもは黒土の泥を汚いと感じるようだった。しかし、その中でも視覚から泥に興味を持ち、指先やシャベル越しで泥の感触を味わい始めている子どももいた。
- 様々な水分量で泥を作り、手のひらや身体で感触を味わっていた。黒土の流動性を活かし、チョコレートやカレーなどの見立て遊びの幅も、より広がったように感じる。泥団子作りに熱中する姿が多く見られた。

## 事例②黒土で泥んこ遊び

**泥や砂への感覚や理解をさらに深めよう！**

**「泥団子」という目標を作り、試行錯誤してみよう！**

# 事例③泥団子づくり



**カチカチ・ピカピカの泥団子って、どうやって作るの？**

**【ねらい】**

**・ 砂や土の感触の違いを味わい、その性質を活かして泥遊びを楽しむ**

**【内容】**

**・ 砂、土、水の配分を工夫して「カチカチ・ピカピカの泥団子」を目指して作る**

# 事例③泥団子づくり

## 子どもの姿



【年中】  
絵本『どろんこどろんこ』を  
思い出しながら試行錯誤！  
「水につけたらお団子が溶けた！」  
「サラサラ砂で固くなった！」  
など友だちと情報共有★



【年長】  
「びちゃびちゃだと固まらないかも」  
などの予測から始まり、  
「大きくしたら崩れた」「サラサラだ  
けでは崩れた」など振り返りながら  
工夫して作っていました★



【年少】  
砂と土を混ぜたら「色が変わった！」  
「コナコナで団子にならない…」  
「ぎゅっぎゅって押してみる！」  
「お水増やしてみる…！」  
気づきや工夫を楽しんでいました★



活動日以降も自分の泥団子を  
大切に“育てる”ように  
関わっていました。  
「次見たら大きくなるかな？」  
など想像を楽しむ子ども♡

# 事例③泥団子づくり

## 保育者の気づき

- 異年齢での違いが面白い。→ 3歳児は、泥団子という目的よりも目の前の素材と自由に触れ合うことを楽しむ/ 4歳児は、泥団子に適した粘り気や固くなっていく感覚を手のひらで探っている/ 5歳児は、固まっていく感触を感じ、磨きに移るタイミングも見計らう姿がある。
- 年少児が年長児にツルツルになった泥団子を触らせてもらったり、仲間に入れてもらったりと、自然と異年齢での関わりが生まれた。
- 活動中の子どもからの言葉は少なく、自分の感触に集中している分、言葉数が少ないのではないかと考えられる。
- 壊れてしまった時の悲しさを感じたり、もう一度作ろうと自分を立て直したりと、心の成長にも繋がるだろう。
- “良い塩梅”を探る調整能力にも繋がり、様々な生活場面でも活かされていくかもしれない

## 事例③泥団子づくり

泥が苦手⇒色の印象はどれ程影響する？

感触が変化していく面白さをさらに体感していこう！

## 事例④うどん作り



**中力粉がうどんになるまで、どんな感触がある？  
食べたらどんな感じかな？**

**【ねらい】**

- ・中力粉から作る「うどん作り」を通して、手や足から伝わる様々な感触を楽しむ
- ・感じたことを友だちや保育者と共有しながら、調理を楽しみ、味わうことで、食への興味関心を深める

**【内容】**

- ・うどん作りの中で、手でこねる工程、足で踏む工程、棒で伸ばす工程、切る工程などを通して、様々な感触を楽しむ
- ・友だちと共に、調理と食事を楽しむ中で、感じたことを表現し合う

# 事例④うどん作り

## 子どもの姿



触った瞬間の笑顔が最高( ^◇^ )  
「さらさら」「ふわふわ」  
生クリームや雪に  
例える子もいました ✨  
握ると少し固まる性質に気付き、  
お団子型を作る様子もありました！

寝かせた生地は  
「べたべた」に変化したそうです！  
分厚いところは「ふわふわ」  
薄いところは「かため」と  
自分なりの見解で  
均等に伸ばしていました ✨



食べてみると…  
「ぶにぶに」「かたかた」  
「つるつる」「ぱさぱさ」  
個体差もあったようで  
色々な感想（オノマトペ）が  
出ていました★



普段のうどんより  
固かったそうですが  
手作りの達成感もあり  
「おいしい」と喜んでいました♡

生地を足で踏み踏み♪  
指先を使ったり、ジャンプしたり、  
かかとで踏んだり、  
進んで色々試していました！  
「ふにゃふにゃ」「雲の上みたい」  
「お餅みたい」と何度も  
楽しんでいました！



# 事例④うどん作り

## 保育者の気づき

- 「中力粉」という1つの素材からも、お団子を作る子、混ぜるように触れる子、お化粧品として肌につける子など、感じ方や楽しみ方がそれぞれ違っていた。
- 感触活動を通して、オノマトペが沢山出てくるようになった。普段の会話だけではあまり出てこない言葉の感性を育む機会となっているだろう。
- 各グループのうどんを食べ比べしたことで、違いに気付く姿もあり、繊細に味わう経験ができた。
- 粉の状態から形を作っていく変化の分かりやすさが良かった。普段の粘土遊びとは違った角度で学びがあった。
- コーンスターチと中力粉の違いに気付く子もいて、感触を敏感に感じ取っていて驚いた。
- 感触への気づきは、子どもたちの表情や感嘆の声に大きく表れていた。

## 事例④うどん作り

子どもたちの繊細な感覚を活かして  
様々な“粉”に触れ、比べてみよう！

# 事例⑤ 粉遊び



**粉って、どんなもの？**

**【ねらい】**

- ・身近な素材に触れ、その感触や特性を楽しむ
- ・様々な素材を使って、試したり比べたりする中で、気づきや発見を楽しむ

**【内容】**

- ・数種類の粉（塩、砂糖、小麦粉、片栗粉）の感触を味わうなかで、気づきや発見を表現する
- ・粉に水や油を加えながら、変化していく感触や見た目を楽しむ

# 事例⑤ 粉遊び

## 子どもの姿



叩いてみたり、擦り合わせてみたり、指でなぞってみたり、塗り広げたり、丸めたり、垂らしたりと、様々な触り方を試し、探究していた🔍



- ・ 特定の粉を気に入って集める
- ・ お料理ごっこを始める
- ・ 水の量を変えて試してみる
- ・ 配分を調整してお団子を作るなど、楽しみ方が多種多様😊



香りなど…五感を使って観察し、粉の種類を言い当てる子もいました！塩の粒子をよく見て「光っている」と、細かなところに気付いていて驚きました✨

どの学年も、どの素材も、お団子を作り出す場面がたくさんありました○これまでの感触遊びが子どもたちの“体験”として根付いているようです…！



# 事例⑤ 粉遊び

## 保育者の気づき

- 様々な種類の粉に触れる中で、その素材の特性に気づき、それに合った楽しみ方や触れ方を見つけていることに驚いた。→塩水を冷たいと表現している子どももあり、手のひらで繊細に温度を感じているのかもしれないと思った。（実際に塩と水を混ぜると5度下がるため）
- 年少では1時間熱中して取り組む姿があった。年中では、その後の外遊びにも、粉遊びを応用する姿があった。→集中力や遊びを展開する力の伸びを感じた。
- 「むにむに」「ぐにゅ」「どるどる」などのオノマトペが沢山出てきたり、食べ物/空想のもの/温度/形容詞で例えていたり、様々な表現が見られて面白かった。
- 好きな感触が個人によって違っていたことも興味深い。
- 手をグーにしたり、斜めにしたり、すぼめたり、様々な手の動きが見られた。可塑性のあるものに出会う事で、身体の動きを学ぶ事にも繋がっていると感じた。
- 年長は知識や言葉が豊富であるが、今回の活動のように、先入観のない状態で、素材そのものにもう一度出会えるような経験が大切だと感じた。

## 事例⑤ 粉遊び

様々な感触遊びの中で形作ることを  
楽しんでいた子どもたち。

次は、粘土に触れ、味わい、  
感じたことやイメージしたことを  
言葉や形で表現してみよう！

# 事例⑥粘土遊び→製作



**粉って、どんなもの？**

**【ねらい】**

- ・手の平や手先を十分に使って粘土に触れ、素材の感触や特性に気付く
- ・感じたことや考えたことを言葉や形によって表現していくことを楽しむ

**【内容】 3種の粘土比較→各学年の製作**

- ・様々な素材の粘土があることを知り、触れていく中での気づきや発見を楽しむ
- ・粘土を触ったり、こねたり、ちぎったりする中で、イメージを広げていき、形づくる

**【製作】**

年少→色付き軽量紙粘土 『ぞうのエルマー』

年中→土粘土 『スイミー』

年長→石粉粘土 『ももたろう』

# 事例⑥粘土遊び→製作

## 子どもの姿



跳んだり踏んだり伸ばしたり...  
「ぐらぐらする」「すべる」「楽しい」足裏よりも身体全体の感覚を捉えているような言葉が多くありました♪



匂い、固さ、重さなど  
自分なりの“視点”を持って  
関わっていました！  
ダイナミックに触る姿も多く、  
色々なオノマトペが出てきました♪



手の付け根、指先、体重など  
全身を上手く使い、  
切ったり伸ばしたり線をつけたり  
粘土ベラを道具として使いこなし、  
粘土に関わる姿がありました♪



色からイメージを広げていく  
子どもたち！  
手にベタベタくっついて  
もへっちゃらなのは  
大好きな色のおかげかな？

# 事例⑥粘土遊び→製作



年少  
『ぞうのエルマー』



年長  
『ももたろう』



年中  
『スイミー』

# 事例⑥粘土遊び→製作

## 保育者の気づき

- 色付き紙粘土は、ちぎってのせるだけでも、様々なものに見立てられるので、自由な発想が広がり、年少児にも扱いやすいと感じた。
- 泥遊びなどの感触遊びが好きな子どもが、細部まで作り込み、サイズや厚みを上手く調整していた。これまでの経験が今回の探求活動にも活かされていると考えられる。
- 泥が苦手な子どもも土粘土に触れていたことから、素材や環境設定次第で参加のハードルも下げられると分かった。
- 重く扱いづらい土粘土に粘り強く向き合い、工夫して、可塑的なものへ変えていく体験は、人間性の形成にも繋がっていくだろう。
- 一人のつぶやきから、行動が連動していく場面があり、協同的な関わりが育っていると感じた。
- 細部へのこだわりや立体表現から、見立てる力や構成する力の育ちが見られる。